

## 5180 **久楽**の世界の旅：フィレンツェ・芸術と文化・都の歴史

月並みな表現をすれば、フィレンツェは、**芸術と文化の都**。

古代ローマ以前から、輸送路として利用されていた、**アルノ川河畔に開花した都**。

フィレンツェは、紀元前約 59 年、**古代ローマの植民地**として建設された。

“フロレンティア（開花）”と名付けられたのは、春に建設されたことから、きているらしい。

アルノ川に港を持ち、**古代ローマの幹線道路、カッシア街道**に近いという立地の好条件が、経済の発展のため、大きな役割を果たした、とある。

この後、記録画像を紹介させていただくが、歴史を知っていただくことで、興味深くなればと

**ローマ帝国時代の終わり、フィレンツェも、急速に衰退時期に突入。**

その後、新しい城壁の建設や、近代的な都市構造計画を、取り入れて、政治、宗教中心に

生まれ変わった。また、商業活動にも力を入れ、**14 世紀から 15 世紀**にかけて、

**最盛期**を迎えたが、政治家と軍隊が衝突し、**教皇派と皇帝派**に分かれ対立したとある。

歴史が証明。いつの時代も、安定した時代が、長くは続かないようだ。

しかし、**フィレンツェの芸術が開花**するのもこの時期。



そこで登場するのが、有力なファミリー、メディチ家。  
多くの貴族の中でも、18世紀半頃まで、中心になって、フィレンツィエの政治を動かした。

この400年の間に、フィレンツィエ人の才能や、多くの芸術家の名前が、  
世界中に広まった、と。今も、世界中から、フィレンツィエを訪ねる人は多い。

**ドゥオモ広場のサンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂。**

話を元に戻して、画像発信は、雨上がりの丘への静かな散策風景から。

